

2012年3月ワークキャンプ@ビシュナプール下見活動報告書

第2回ワークキャンプのための事前調査を行う

ソーシャルビジネスプロジェクト飛躍的躍進

新たなプロジェクト、エデュケーショナルプロジェクトが動き出す

ワークキャンプに加えて、2つのプロジェクトのために渡航した。

【日程】

2012/02/26-2012/03/20

【メンバー】

ワークキャンププロジェクト

梶田 恵理子・早稲田大学3年

土屋 菜月・早稲田大学1年



～インドの大学にてプレゼンを行う～

ソーシャルビジネスプロジェクト

安田 亜希・早稲田大学3年

エデュケーショナルプロジェクト

檜山 大輔・早稲田大学3年(2012/03/08-2012/03/17)



～就職直前にコロニーの子供たちのためにインドまではるばる飛んできた大輔～

【渡航の目的】

ワークキャンププロジェクト

- ・ 次回ワークキャンプのためのワークニーズ調査を行う。
- ・ 前回ワークキャンプの事後調査を行う。
- ・ インド人学生を勧誘するためにインドの大学にてプレゼンテーションを行う。

ソーシャルビジネスプロジェクト

- ・ 今後販売予定の物品の発注をする。

エデュケイションナルプロジェクト

- ・ コロニーに住む子供たちの教育状況を調査し、どのような支援が最も適しているかを考える。

【成果】

ワークキャンププロジェクト

- ・ ワークニーズを調査し、次回ワークキャンプのワークプロジェクト計画を立てた。
- ・ 前回のワークキャンプの事後調査を行い、問題が発生していることが判明した。次回のキャンプにおいて、問題の改善と、問題の再発を防ぐ計画を立てた。
- ・ 新たなカウンターパートナーとの関係を構築した。（これまでのカウンターパートナーとの関係は継続している。）
- ・ 大学でのプレゼンを通して、多くのインド人学生がワークキャンプ活動に興味を持ってくれた。

しかしながら、特に彼らの親世代に根強く残るハンセン病に対する差別意識が勧誘を困難にさせた。

ソーシャルビジネスプロジェクト

- ・ カウンターパートナーと共に、物品のデザインを行った。
- ・ 物品の発注を行った。

エデュケーショナルプロジェクト

- コロニーに住む子供たち全員が学校を途中でドロップアウトしていることが判明した。
- インド人キャンパーと共に、ベストな支援方法を模索した。